

\*本リリースは2020年6月23日シンガポールにて発表されたリリースの抄訳です。

ご参照: <https://visaapnews.asia/post/621685065837084672/visa-token-service-issues-its-1-billionth-token>



NEWS RELEASE

2020年6月26日

## Visa トークンサービス、10 億個のトークンを発行

### Visa、デジタルトランザクションの保護対象拡大のため、Visa トークンサービスの拡張を発表

Visa は本日、[Visa トークンサービス](#) (VTS)によるトークン発行数が全世界で 10 億個を超え、e コマースのイノベーション促進や決済の安全性強化に向けた独自サービスの提供において、大きなマイルストーンを達成したことを発表しました。Visa トークンサービスは、カード保有者が持つ 16 桁のカード番号をセキュアなトークンに変換することで、不正行為から本来のカード番号を保護します。

世界が[デジタル化](#)へと大きく移行し、私たちの生活、仕事、購入の様式が変化する中、Visa のトークン技術は急速に普及しています。アジア太平洋地域においては、消費者の 41%が過去 3 ヶ月間で 5 回以上の e コマース取引を行っています<sup>1</sup>。同地域の消費者の 4 人に 3 人は、今回の世界的なパンデミックが収束を迎えたとしても、現金での支払いには戻らずデジタル決済の利用を続けるという調査結果もあります<sup>2</sup>。デジタル決済を利用する消費者は、2021 年までに世界中で 21 億人に達するとみられており<sup>3</sup>、これまでに以上に世界規模でデジタル決済の安全性強化が重要性を増している中、Visa のトークン技術は重要な役目を担うことになるでしょう。

加盟店や小売業者によるトークン技術の導入が進む中、VTS はクレデンシャル・オン・ファイル (COF) トークン化への取り組みの拡張、推進に努めています。今日では、13,000 店を超える加盟店が Visa COF トークンを使用した取引を行っています<sup>4</sup>。また、8,200 を超えるイシューが、150 もの市場で Visa トークンサービスの提供を可能にしています。

Visa アジア太平洋地域、デジタルソリューションズ担当ヘッドの Previn Pillay は次のように語っています。「アジア太平洋地域において、オンラインやコネクテッドデバイス経由での購入が拡大する中、デジタル決済における安全性確保がより重要となっています。そのため、Visa のトークン発行数も増加しているのです。トークンを採用している加盟店では、決済の承認率が向上していると聞いており、加盟店にとっても消費者にとっても喜ばしい結果となっています。トークンを利用することで、誰でも、どこでも、より安全な決済を利用できるようになると考えています。」

### 20 億個目のトークン発行に向けて - トークン化はカードからクラウドへ

Visa は、将来を見据え、データ保護におけるオペレーション上のリスクを最小に抑えるために新たに生み出された加盟店やモバイルキャリア向けソリューションの提供を開始し、消費者による不要な手順や

<sup>1</sup>Visa が委託し YouGov が実施した、オーストラリア、ニュージーランド、香港、シンガポール、マレーシアに住む 4,770 人の消費者を対象とした調査(2020年5月21~25日に実施)

<sup>2</sup>Kantar 新型コロナウイルス (COVID-19) パロメーター、フィールドワーク調査(2020年3月27~31日実施)本研究は世界における 40 市場およびアジア太平洋地域の 11 市場の消費者データを照合。

<sup>3</sup>Statista による 2014~2021 年のデジタル決済による購入者数

<sup>4</sup>2019年1月~2020年6月に処理されたトークン発行トランザクションに基づく VisaNet 加盟店データ

手間を削減します。こうした開発により、Visa は、ネットワークレベルと金融機関レベルの双方に適用可能な、業界をリードする最新のセキュリティ対策を実施することができるのです。

- **トークン ID により、トークン化の有用性がカード利用時より拡張:** Visa は、[最近買収した](#) Rambus Payments トークンサービス事業を Visa ソリューションである「Token ID」とするブランド再生計画を発表しようとしています。Token ID を利用することにより、トークン化によって Visa が提供できる有用性は Visa のネットワーク上でのカードベースの決済を超え、対象地域のカードネットワークやアカウントベース決済、リアルタイム決済へと拡張します。Visa トークンサービスと連携させることにより、Token ID は、クライアントによる詐欺防止やトークン化技術を利用した決済ソリューションの安全性確保をサポートする一方、Visa による、特定のローカライゼーション要件を持つ新たな市場でのトークン化サービスの拡張も後押ししてくれます。
- **CyberSource によるトークン・マネジメント・サービス:** CyberSource によるトークン・マネジメント・サービスは、顧客の決済データ保護、決済コンバージョンの向上、PCI コンプライアンスのハードルを容易にするために、トークン管理を一本化、簡素化します。本サービスは、さまざまなサービスプロバイダーや決済タイプ、また加盟店、アクワイアラ、テクノロジープラットフォーム向けのチャンネルにまたがるトークンをリンクします。そして単一化されたトークン識別子を生成することで、カードや銀行口座、対象地域の決済スキームといったあらゆる決済ツールの管理を一元化します。CyberSource が生成した単一化されたトークン識別子により、重要な顧客の決済データが保護され、決済チャンネル、加盟店特典、ロイヤルティ・プログラムなどの違いにかかわらず、顧客をあらゆる角度から管理することが可能になります。
- **クラウド・トークン:** オンラインショッピングにおける消費者のデバイス利用が拡大する中、Visa は、トークンを単一のデバイスに絞らずより流用性を持たせた、クラウドベースの新たなシステムを実現しました。「Visa クラウド・トークン・フレームワーク」では、消費者のアカウントに付与された e コマースやカード・オン・ファイルのトークンを、信頼性が証明された複数のデバイスで流用できるようになります。「クラウド・トークン」は世界中で利用可能ですが、まずはラテンアメリカ・カリブ海地域 (LAC) で導入が開始されました。中でもブラジルの消費者は、世界中で初めて新しい「Visa クラウド・トークン」技術を利用し、WhatsApp 上でセキュアな決済を実施することができました。

こうした革新的な動きの中で、10 億個のトークン発行はさらなる重要なマイルストーンを意味しています。これは Visa が、COF トークン・リクエストとなる [VTS に対する 28 の新たなパートナーを発表](#)した直後に達成され、今後、Visa のクレデンシャル情報を使用したワンタイム決済や定額自動決済の双方において、デジタルトランザクションの安全性をさらに向上していくことを意味しています。

Visa トークンサービスの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

## Visa について

Visa は、電子決済の世界的リーダーです。Visa のミッションは、最も革新的で信頼性が高く安全な決済ネットワークで世界を結び、個人や企業、そして経済の繁栄に貢献することです。Visa が保有する最先端のグローバルなプロセッシングネットワークである VisaNet は、毎秒 65,000 件を超す取引を処理することができ、世界中に安全かつ信頼のおける電子決済を提供します。デバイスにかかわらず、誰でもどこでも利用できるデジタル・コマースの急速な発展を目指し、Visa は常にイノベーションの追求に邁進しています。世界がアナログからデジタルに移行しつつある今、Visa は自社のブランド、商品、人材、ネットワーク、および企業スケールを活かして商取引の未来を形作っていきます。詳しくは、<https://usa.visa.com/about-visa/our-business.html> (英語サイト) または [www.visa.co.jp](http://www.visa.co.jp) (日本語サイト) をご覧ください。